

当社は、JAPICの動物実験実施施設認証を取得しています



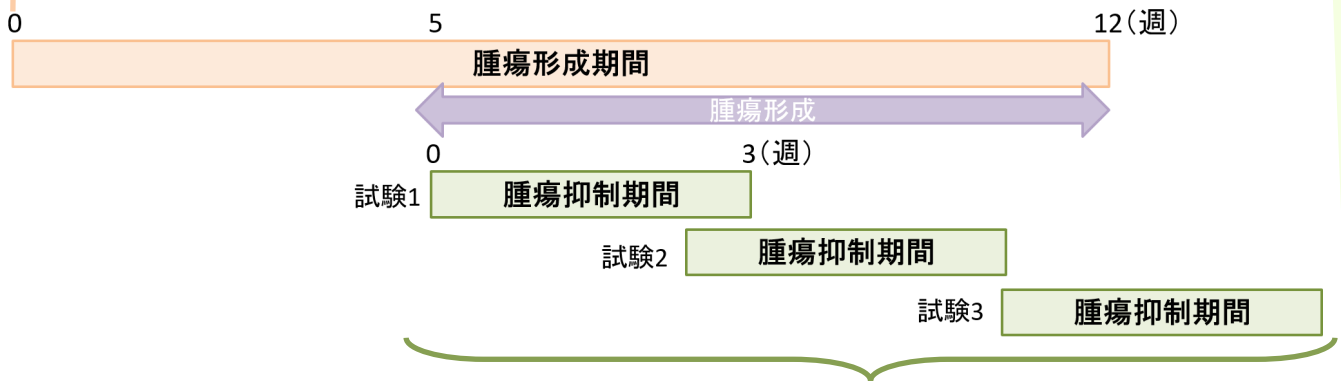
## DMBA誘発ラット乳腺腫瘍モデルを用いた抗腫瘍試験

今月、私たちは乳腺腫瘍の新しいモデルとして、発がん性物質である7,12-Dimethylbenz[a]anthracene (DMBA) を使用した「DMBA誘発ラット乳腺腫瘍モデル」を立ち上げました。このモデルは乳腺腫瘍の研究において有用であり、新たな治療法や予防策の開発に寄与することが期待されています。

### ◆試験デザイン

使用動物：Cri:CD(SD) 雌ラット

モデル作製方法〈腫瘍形成期間〉  
投与物質：7,12-Dimethylbenz[a]anthracene (DMBA)  
投与方法：強制経口投与(実験開始時に1回)



#### 〈腫瘍抑制期間〉

直径8~20mmの乳腺腫瘍が1~3個形成された動物を選択して群分けを実施し、抑制物質(レトロゾール)を投与開始した。個体によって腫瘍形成時期が違うことから、開始時期をずらし、3試験に分けて実施した。

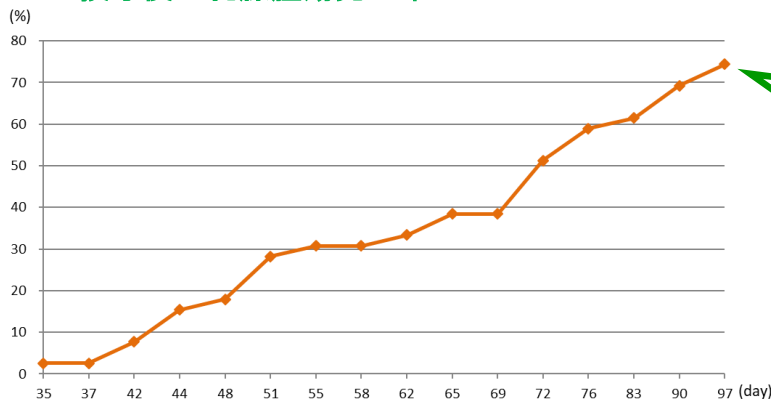
群構成：

群	検体
1	対照群(MC溶液)
2	レトロゾール

投与方法：強制経口投与(1日1回、3週間)

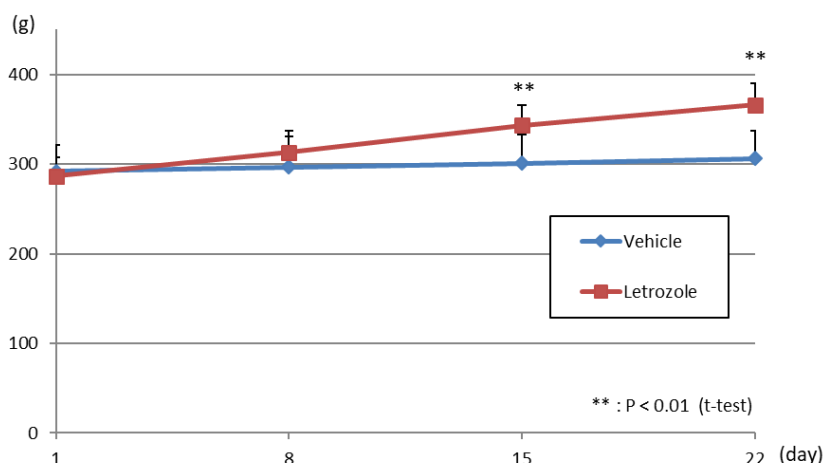
評価方法：乳腺腫瘍の数および大きさを測定し、腫瘍の発生個数と総体積で評価

### ◆DMBA投与後の乳腺腫瘍発生率



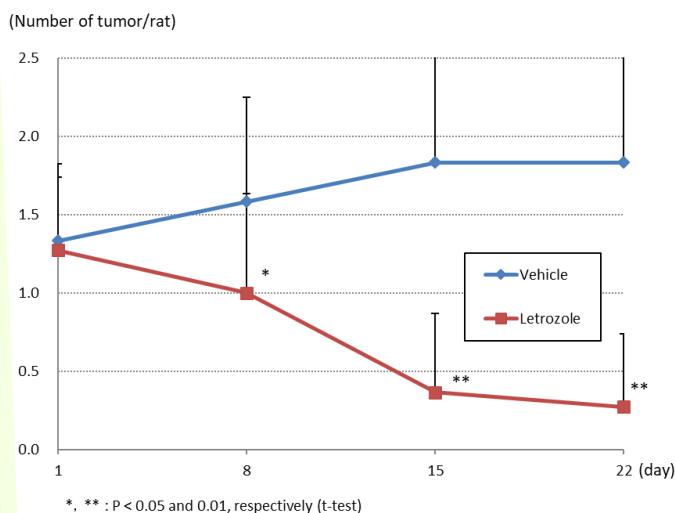
DMBA投与後35日経過後から乳腺腫瘍がみられ、97日経過後の発生率は74%以上であった。

### ◆レトロゾール投与期間中の体重推移

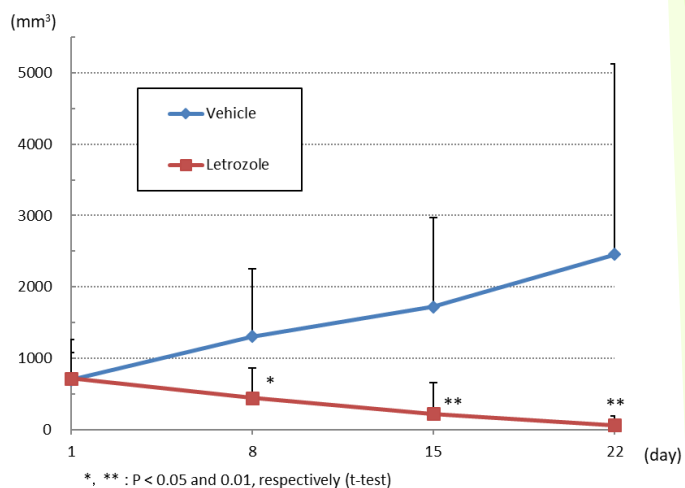


### ◆レトロゾール投与期間中の乳腺腫瘍の個数及び体積

#### 乳腺腫瘍個数



#### 乳腺腫瘍体積



## 結果

媒体群に対して、抑制物質(レトロゾール)群で乳腺腫瘍個数及び体積で有意な低値を示し、**抗腫瘍効果が認められた。**

当社ではDMBA誘発ラット乳腺腫瘍モデルを用いて、各種抗がん剤や機能性食品の**抗腫瘍効果**の評価が可能です。乳腺腫瘍モデル動物の腫瘍個数及び体積を計測・算出することにより**抗腫瘍効果**を評価いたします。  
ご興味がありましたらお気軽にお問い合わせください。

